

きたすま

両親はイエスが学者たちの真ん中におられるのを見つけた
(ルカ2・46)

No.222(1月号)

2021年12月25日発行
発行 カトリック北須磨教会
〒654-0151
神戸市須磨区北落合2-3-1
発行人 高橋 聡
編集 広報委員会

賢明な教育

グイノ・ジェラルド 神父

イタリア人のアンジェロは自分の10歳の息子ペピトが立派な人間になるためにいつも新しい教育の方法を考えていました。アンジェロの妻は夫のやり方について不安を抱いていましたが、彼のやり方は効果的であることを少しずつ分かったので、ペピトの教育を任せました。ペピトが12歳になった時にアンジェロは息子のために大人への特別な通過儀礼を考えました。

ある夕方にアンジェロはペピトを隣の森へ連れて行き、空地に着いた時に息子の目に布で目隠しをしました。そして息子を古い木の幹に座らせて「ペピト、よく聞きなさい。明日の朝まで一人でここに居なさい。どんなことがあっても絶対に目隠しの布を外してはいけません。しかし、明日の朝5時頃になって太陽の光線を感じたら目隠しの布を外してもいいです。おめでとう。その時こそ、あなたは子供ではなく大人になったのです」と息子に説明しました。

ペピトは夜中に一人ぼっちで森の中に残ることを恐れていましたが、父の言うとおりにしようと決意しました。なぜなら、ペピトは自分の父に対して強い信頼を持っていたからです。目隠しをしているので何も見えないペピトは、最初はとても不安で

色々な音がとても不気味に聞こえました。しかし、森の様々な音は時間が経つに連れて少しずつ慣れてきて、微妙な音を聞き分けられるようになってきました。枝の間に吹く風の音、フクロウの鳴き声、夜に動物が動く音など、耳を傾けていると色々な音を聞き分けるゲームのように思えてきました。ペピトが初めに感じていた不安はすっかり消え、いつの間にか森の色々な音が子守歌の様に聞こえ、心地よく音にあやされて知らないうちに静かに眠ってしまいました。

やがて朝の太陽の光線が優しく彼の体の上に注がれ、ペピトは目を覚ましました。目隠しの布を外すと自分のすぐそばに父が座っていました。ペピトはびっくりしました。「ペピト、私の可愛い息子よ。お前はとても偉い、父さんは感動したよ。実は私は夜どおし近くにいてお前の動きを見張っていたが、お前は一度も目隠しを外すことをしなかった。むしろ森の様々な音に興味深く反応して聞こえてくる音を聞き分けていた。私はお前を自慢したいよ。我が息子よ、お前は立派ないちにん前の人間、真の大人だ」と言いながら目から溢れ出た幸せの涙を拭きました。

数日後アンジェロは平和について考えるようにペピトに二枚の油絵を見せました。一枚の油絵は、青空に白い雲が浮かび、緑の山に囲まれている壮大な湖が描かれた油絵でした。もう一枚の油絵は、夜の嵐の中の険しい山から湧き出る強い滝の描かれた油絵でした。ペピトは2枚の油絵をゆっくり細かく見てから、父に険しい山の油絵を渡しました。「これこそ平和をよく示す油絵です」とペピトは言いました。父は「どうしてだい?」と尋ねました。「はっきりとは見えないけれど、この滝のそばに茂みがあり、そこで母鳥が巣を作っています。この母鳥は嵐に耐えながら自分の羽の下に居る雛たちを命がけで守っています。これこそ平和を現わしていると、ぼくは思います」。「そう、その通りだよ。戦争と暴力に満ちた世界では、物理的な安全と政治的な調和は、必ずしもここで問題となっている平和を反映しているわけではないのだよ。平和は静かすぎる状況の中にはないのだ。平和は困った状態の中であって、静かさを保つ

心の中にあるのだよ」と、興奮しながら父アンジェロは腕にペピトを抱きしめながら言いました。

何も見えない時、あるいは孤独の中で頑張らなければならない時にも、私たちの直ぐ傍でイエスは黙って見守っています。次々と試練や思いがけない問題が私たちを襲う時こそ、イエスはもっと近くにちかづいて私たちを見守るのです。イエスは「平和の君」(イザヤ9:5)であり、良い教育者ですから。イエスは私たちに問題のない人生を約束したことはありません、私たちを助けると約束しただけです。実際、イエスは私たちが試練(ヤコブ1:2)と苦難(ヨハネ16:33)に直面しなければならないと警告しました、私たちがイエスを呼ぶならば、彼は人の想像と理解を「超える神の平和」を与えることを約束しました(フィリピ4:6-7)。これこそ神の賢明な教育のやり方だと私は信じています。

主の降誕 夜半のミサ



主のご降誕おめでとうございます!

12月24日(金)18時半より、主の降誕のミサが行われ、厳かな雰囲気の中で主のご降誕を共にお祝いしました。

昨年に続き、密にならないように席を配置、ウィルス感染予防に気を配りながらの静かなミサでした。聖歌をうたい、ミサ後のパーティーで喜びをともにできる日が待ち遠しいですが、24日、25日の両日で約120人が参加、このような状況の中でもミサに与ることができたことに感謝です。



Merry Christmas



新しい「ミサの式次第と第一～第四奉献文」の変更箇所（1）

典礼委員会



長年検討が進められてきたローマ・ミサ典礼書ラテン語規範版第2版に基づく日本語版改訂作業の一部が本年5月、典礼秘跡省の認証を受け、2022年11月27日(待降節第1主日)から実施されることが決まりました。

本稿ではこの変更の解説書(日本カトリック典礼委員会篇)に基づき信徒の皆さまに関わりの深いところを抜粋しシリーズでお届けいたします。

ミサの典礼書は第二バチカン公会議の「典礼憲章」(1963年)に基づきバチカンの典礼秘跡省からラテン語規範版が発行され、それを各国語に翻訳し各国への適応も加えたものを地域の司教団が認可し、典礼秘跡省の認証を受けることになっています。

ラテン語規範版の初版(1970年)はすでに2回(1975年、2002年)改訂されていますが日本語版については1975年の第2版に基づいたものが1978年に暫定認証、発行され現在に至っています。

その後、さまざまな意見を踏まえ更なる改訂を準備していたところに規範版第3版(2002年)が発行され、これを受けて再度見直しが行われ今回の認証に至りました。

ただ、今回の改訂はミサの主要部分である「ミサの式次第と第一～第四奉献文」ですので、それ以外の公式祈願や拝領唱などは従来のミサ典書に拠ることになりますが、「聖書と典礼」や「毎日のミサ」にはこれに則ったものが掲載される予定です。

またミサの賛歌(あわれみの賛歌、栄光の賛歌など)については、新しい翻訳に沿った旋律が準備される予定ですが、現行の典礼聖歌(203～229)も用いることができることになっています。

今回の改訂部分以外の規範版第3版の翻訳や適応の見直しは引き続き行われます。従って今後も少しずつ変更が続くことになるでしょうが、典礼は生きた教会の姿ですので変化を正しく受け入れていきましょう。

今回の変更の中にはまた、式文の唱え方や沈黙の取り方、司式者、信徒の所作についても新たに明確にされた部分もあります。具体的には次稿以降に説明しますが、言葉だけでなく声の大きさや所作もミサ典礼の一部ですので理解して従いましょう。

次回からは具体的な式文に移ります。よいお年をお迎えください。(文責：H)



マンスリースケジュール1月



日・曜日

2022

1/1 土	神の母聖マリア	ミサ10:00~		
2 日	主の公現	ミサ10:00~	第3・6B・7地区	
3 月				
4 火				
5 水				
6 木				
7 金				主日の聖書を読む会(14:00~)
8 土				
9 日	主の洗礼	ミサ10:00~	第2・6A地区	
10 月	成人の日			
11 火				社会活動センター炊き出し(9:30~)
12 水				
13 木				
14 金				主日の聖書を読む会(14:00~)
15 土				
16 日	年間第2主日	ミサ10:00~	第1・4・5地区	北須磨評議会(ミサ後)
17 月				
18 火	キリスト教一致祈祷週間(~1/25)			
19 水				
20 木				
21 金				主日の聖書を読む会(14:00~)
22 土				
23 日	年間第3主日	ミサ10:00~	第3・6B・7地区	典礼委員会(ミサ後)
24 月				
25 火				
26 水				
27 木				
28 金				主日の聖書を読む会(14:00~)
29 土				広報委員会(10:00~)
30 日	年間第4主日	ミサ10:00~	第2・6A地区	
31 月				
2/1 火				
2 水	主の奉献			
3 木				
4 金				主日の聖書を読む会(14:00~)
5 土				
6 日	年間第5主日	ミサ10:00~	第4・5地区	

注)大阪教区からの新しい通達があるまでは、上記ローテーションでのミサ参加となります。

カトリック北須磨教会ホームページ <http://cathkitasuma.web.fc2.com>

葬儀用電話の運用は終了しました。緊急時は高橋神父(090-6329-5709)にご連絡ください。



- ◇ ミサに与る時は、マスクを着用し、手指の消毒に心がけてください。
- ◇ 『聖書と典礼』はご自分の分を持参してください。